

チェックリスト

投函する前に、投稿原稿が以下の事項に適合しているかどうか確認(□をクリックしてチェック)し、このチェックリストも原稿といっしょに提出してください。

本文

- 原稿の本文に、著者名や著者の所属を書いていない。[著者名を伏して査読するために]
- 本文中に、「拙著によると……」「筆者は以前……について論じた(田中 2002)」など、著者が直ちにわかるような表記をしていない。(→たとえば、「田中は以前……につい論じた(田中 2002)」のように書く。)[著者名を伏して査読するために]
- 引用文献や注が、執筆要領に従って示されており、脚注は用いていない。

文献

- 文献の表記が、以下の形式になっている ("_" は半角のスペース).
 - (1) 和文の論文
著者名_年:「論文名」『雑誌名』巻(号), 始頁-終頁.
 - (2) 和文の図書
著者名_年:『書名』出版社.
 - (3) 和文の図書(欧文の邦訳書)
著者名_年:邦訳者名『邦訳書名』出版社;原著者名_原書書名[イタリック],_原書出版社,_原書出版年.
 - (4) 欧文の論文
著者名_年:_"論文タイトル,"_雑誌名[イタリック],_巻(号),_始頁-終頁.
 - (5) 欧文の図書
著者名_年:_書名[イタリック],_出版社.
 - (6) 欧文の図書(邦訳あり)
著者名_年:_書名[イタリック],_出版社;邦訳者名『邦訳書名』出版社, 年.
 - (7) インターネットからの資料
報告書, 論文等については、(1)~(6)の最後に URL と閲覧日を記載。
それ以外の場合は、著者名_年:「記事タイトル」, URL (閲覧日) を記載.
- 執筆のときに邦訳書を用いた(本文中で邦訳書のページをあげている)ときは、上記(3)の形式で文献を挙げる。執筆のときに原書を用いた(本文中で原書のページをあげている)が邦訳もあるときは、上記(6)の形式で文献を挙げる。
- 終頁の数値のうち、始頁の数値と同じ上位の桁は、それを省略する。
 - 例 1: × 723-728
○ 723-8
 - 例 2: × 723-741
○ 723-41

著者が複数の時は、次のように書く。

和文の場合: 丸山剛司, 井村裕夫

欧文の場合: Beck, U., Weinberg, A. and Wynne, B.

著者名(原著者名)を欧文で記すとき, Last name はフルネームで記載し, first name はイニシャルのみとする。ただし, 同名の著者が複数登場して混乱するときは, first name をフルネームで記載する(それでも区別がつかないときは, middle name も書く)。

欧文雑誌などの文献を示すときは, 他分野の研究者でも容易にその文献がわかるように, 分野固有の略記は避ける。(たとえば, *H. S. P. B. S.*ではなく, *Historical Studies in the Physical and Biological Sciences* と表記する。ただし, あまりにも煩雑になるようであれば, 初出箇所ではフルに表記し, 2回目以降は略記を用いてもよい)。

本誌(『科学技術社会論研究』)に掲載された論文を挙げるときは, 単に "本誌 第1号"などとせず, 『科学技術社会論研究』第1号 のように表記する。

表紙

和文表題, 英文表題, 英語キーワード, 英文抄録を記した表紙を, 本文の前に付す。(投稿の種類によっては, 2枚目に和文表題, 和文要旨を記す)。

表紙に, 著者名や著者の所属を記載していない。

(投稿の種類が, 総説, 原著, 短報の場合のみ) 400字程度の和文要旨, 200語以内の英文抄録と5個以内の英語キーワードをつけている。

一つのキーワードは, 概ね3語以内にとどめ, 各キーワードの最初のみ大文字にする(たとえば *Developing countries*)。

投稿票

執筆者全員の氏名・所属・職名・連絡先が, 和文と英文の両方が記入してある。(執筆者名のローマ字表記は, 姓名, 名姓, どちらの順でもよい。ただし複数の執筆者がいるときは全員について同じ順にする。)

送付の前に

原稿と投稿票, このチェックリストを, 電子メール添付にて事務局宛に送付する。